



クリスマスが近づくと、キャンパス内にクリスマスツリーを設置する大学がある。大学の冬のシンボルとしても認識されている一方で、近年、ツリーに対してツイッター上で「光る学費」とつぶやく学生らの投稿が反響を呼んでいる。

同志社大では、創立125周年を迎えた2000年から今出川校地でツリーの設置を始め、04年からは京田辺校地にも設置した。今出川校地ではヒマラヤスギ、京田辺校地ではモミノキを使用し、飾り付けるLEDライトの数はそれぞれ1万3千個、6300個だ。今年も11月に各校地で点灯式が開かれ、学生だけでなく地域住民も参加した。

キリスト教系大学の同志社大は、クリスマスを大学の理念を周知させる重要なイベントと位置付ける。広報課の河村秀

明さんは「創立者の新島襄が米国で学んだキリスト教の理念に基づいて、ツリーを設置している。『光る学費』と言う学生らは、設置の目的をあまり理解していないのでは」と話す。

関西学院大上ヶ原キャンパスでは、時計台の前で高さ約9mの2本のクリスマスツリーが輝いている。1本のヒマラヤスギにつき電球の数は約300個。ロウソクの白色を基本にした電飾で、電球6個に1個の割合でりんごをイメージした赤色が入っている。



同志社大のクリスマスツリー（撮影＝富山陽色 今出川校地）

# キャンパス彩るツリー

## 学生「光る学費」揶揄 大学「教育理念知って」



関西学院大のクリスマスツリー（撮影＝下島奈菜恵 上ヶ原キャンパス）

キリスト教主義教育を実践する関学大にとってクリスマスツリーは欠かせないもの。東日本大震災後、電球をLEDに変えたり点灯時間を短くしたりと環境に配慮している。

取材した2大学のツリーは、設置の背景にはキリスト教系大としての理念があり、学生だけでなく地域住民にも冬の風物詩として親しまれている。「光る学費」とも揶揄（やゆ）されながら、学内外に大学の理念を周知させる存在として、両大のツリーはこれからも光り続ける。

（聞き手＝下島奈菜恵、竹内涼）

※休刊のお知らせ

2016年1月2日の週刊FOCUSは休刊いたします。次回発行は1月9日です。ことしもご愛読いただきありがとうございます。来年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>  
 ■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F  
 (TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

同志社大 (今出川校地)		関西学院大 (上ヶ原キャンパス)
計1万3000個	<b>電球の数</b>	計600個
11月21日～12月25日 午後5時～午後10時 (※初日は異なる)	<b>期間</b>	11月28日～12月25日 午後4時半～午後10時半
約132.99kw	<b>期間中の消費電力</b>	約5.976kw
約3292円	<b>期間中の電気代</b>	約148円
・LED電球100個あたり6W、電力量料金24.75円/kWhと仮定。 ・期間中の消費電力×電力量料金で計算しました。 ・期間中の消費電力と電気代は仮定して計算したもので、大学側に確認を取ったものではありません。		

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会  
 同志社大学 PRESS 編集部  
 NEWS 立命通信社  
 関学新月通信社  
 大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部  
 神戸女学院大学 K.C.Press 編集部  
 京都女子大学 藤花通信編集部  
 京都大学 CLOCK 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです